

松下幸之助と三木神社！

——水戸市常磐神社・境内

初詣で例年多くの参拝者が訪れる水戸の常磐神社。その本殿の左奥にある三木神社の存在は意外に知られていませんが、徳川光圀公と深い縁がある神社なのです。

光圀公は水戸市柵町にあつた家臣・三木之次ゆきつぐの家で生まれ、幼少期は三木夫妻に育てられました。一度は父・頼房公から「水にせよ(墮胎)」との達しがあつたものの、哀れに思つた之次が密かに自邸で光圀を産ませたとのエピソードも残されています。

やがて光圀は「天下の副將軍」として活躍することになったことはご存知の通りです。

さて、時代は下つて大正時代。後に日本の実業家として名を馳せる松下幸之助は電球ソケットを考案、製造販売で電機メーカーとしての第一歩を踏み出しました。

仲間5人とともに独立したものの、新型ソケットは売れ行きが芳しくなく、幸之助のもとから仲間たちも離れていくという苦境に立たされます。



幸之助が大坂四天王寺の境内で、二股の電球ソケットを販売していたところに偶然、三木家の子孫である三木啓次郎が通り掛かりました。

啓次郎は「これは面白い、全部買ってやる」と、水戸の田畑を抵当にして幸之助に救いの手を差し伸べたのです。若き頃の窮状を救ってくれた啓次郎に対して、幸之助はその恩を一生忘れることなく働き続け、一代でパナソニック(旧松下電器産業)を築きあげて行つたのです。

昭和40年になって、光圀の命の恩人でもある三木之次と妻・武佐のふたりを祭神とした三木神社の創建に際し、幸之助は多大な浄財を奉納しました。さらに昭和44年にテレビドラマ「水戸黄門」の放映が開始されると、メインスポンサーとして番組を支え、啓次郎の恩に応えたのです。

ドラマ「水戸黄門」は残念ながら昨年、終了しましたが、幸之助と水戸との関わりを知ることのできる三木神社を初詣で参拝してみたいかがでしょう。(文中、敬称略)

(参考文献)朝日新聞「ソッポン人脈記黄門は旅ゆく4世直し幸之助のドラマほか」



【問い合わせ先】常磐神社 TEL.029-221-0748
【所在地】水戸市常磐町
【アクセス】JR水戸駅からバス約15分。常磐自動車道水戸ICから約20分。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

この一年間のご愛顧ありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。良いお年をお迎えください。